

令和3年11月 4日(木)



先週と今週は、児童会運営委員会が企画した「アルミ缶回収強調週間」です。

今回は、一人一人の児童が、アルミ缶回収の協力を求めるチラシを3枚程度持ち帰り、近所の方々のお宅にお願いにあがりました。

これは、昨年度にはなかった取り組みです。活動のきっかけとなったのは、第1回学校運営協議会で委員の方々からいただいたご意見です。「学校と地域の結びつきを生む活動として、例えば、アルミ缶回収に工夫を加えてはどうか」というご意見をいただきました。運営委員児童に話したところ賛同の声があがり、

今回の取組へと発展しました。全校児童の中には、初めに配られた以上の枚数をご近所のお宅に配ったという児童もいます。「アルミ缶回収」を通して、子どもと地域の方々が言葉を交わし、互いの顔と心がより一層つながったとしたら、大変うれしいことです。

本校は、今年度より、地域の声を学校運営に生かす「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を取り入れています。また、手ノ子・高峰・中津川地区全戸の皆様より、学校後援会としてお力添えをいただいています。

今後より一層、地域の皆様が学校とのつながりを感じられるようにしていきたいと考えております。皆様のお声を、学校までいつでもお届けくださいますようお願いいたします。

令和3年11月 8日 (月)



本校では、年度途中の改善・変更となりますが、9月14日(月)から冬季バス期間前の11月12日(金)まで、下校時刻の変更のご理解とご協力を保護者及び祖父母の皆様をお願いしています。

今年度4月より、新しい日課時限表に沿って学校生活を送ってきました。昨年度に比べて下校時刻を早めることで、児童数及び教職員数の減少による、複式授業の教材準備や校務分掌の一人当たりの業務量の増加に対応するためです。

大勢の子どもが放課後のグラウンドや公民館等で遊ぶ姿が見られるようになった反面、一日の時間を極力切り詰めたため、学年によっては慌ただしさを感じる事が1学期の課題として残りました。

そこで、下校時刻を10分繰り下げることで、子どもたちの学校生活にゆとりを持たせることにしました。また、2・3年生は、月曜日と金曜日も4～6年生と同じ下校時刻とし、級外職員が見届けを行うことにしました。

おかげさまで、2・3年生の放課後活動として地域の方々にご協力いただける日もありました。10月29日(金)には、ふるさとクラブの8名の会員の方々と一緒に、グラウンド・ゴルフを行うことができました。11月1日(月)には、手ノ子区協議会の会長さんと里づくり推進委員会さんさん部会長さんと一緒に、10月30日(土)に「森づくりの集い」でコブシ・ハンノキの森の植栽を行った八幡山桜の森を見学することができました。

今後とも、働き方改革を進めつつ、子どもたちの豊かな体験と郷土愛醸成のために、地域の方々のご協力を仰いでいきたいと思ひます。

令和3年11月10日（水）



10月20日（水）・21日（木）に、運営委員児童が各教室を回って赤い羽根募金を集めました。本日はお忙しい中、社会福祉法人飯豊町社会福祉協議会の会長さんと総合福祉管理室長さんがご来校くださいました。

「どんな人でも安心・安全に暮らせる町づくりに役立ててください」というメッセージを添えて、手ノ子小学校児童会の全員から集めた募金を、運営委員長から会長さんにお渡ししました。

「どんな人でも安心・安全に暮らせる町づくりに役立ててください」というメッセージを添えて、手ノ子小学校児童会の全員から集めた募金を、運営委員長から会長さんにお渡ししました。

募金を受け取ってくださった後、会長さんが地元にお住まいということで、以下のような温かい励ましのお言葉を頂戴しました。

「地元の皆さんの頑張りに、いろいろな場面で接しており心強く思っている。先日は、西部地区公民館の展覧会で、運動会のビデオを視聴した。児童数は少なくとも、皆さんの頑張りはいろいろな工夫がされており、さすがだと思った。地元の一住民として、これからも頑張ってもらいたい。」

今後とも、社会に開かれた教育課程の実現に向けたコミュニティスクール（学校運営協議会制度）の取組により、活力ある地域の学校づくりを進めてまいります。

令和3年11月26日（金）



24日（水）に町の学校給食共同調理場から栄養教諭を迎え、5・6年生を対象にめざみっこ給食の献立を立てるための学習会を行いました。

まず、栄養教諭が、体は食べ物でできていて、食べたものが自分の体になっていくといった内容の詩を提示し、「栄養素とは何か」について子どもたちに問いかけ、「命を保ち、活動し成長するために必要なもの」ということを指導しました。

その後、子どもたちは、5年生が学習する「五大栄養素」と、バランスをとるための「赤の仲間（血や肉になる）」「黄の仲間（熱や力のもとになる）」「緑の仲間（体の調子を整える）」との関係を確認しました。そして、その他の献立を立てる時のポイント（味のバランス・色のバランス・好み・旬・価格・時間等）を、栄養教諭に教えてもらってから、ペアごとに献立を立てました。

次回の12月2日（木）にペアで立てた献立を発表し合い、「ベストオブ手ノ子小」を選ぶ予定です。選ばれた献立は、来年2月の飯豊町内給食の献立にそのまま採用されるそうです。また、選ばれなかった献立も、主食・主菜・副菜・汁物・その他に分けて、部分ごとに採用されるそうです。

5・6年生の子どもたちが、心身の成長のためにバランスよく食べることへの関心を高めるきっかけとなっています。

令和3年11月29日(月)



先週の22日(月)には、飯豊町観光協会さんと、親交がある台湾の旅行会社の通訳さんを介し、校長が十分小学校の校長先生とオンラインで顔合わせを行いました。十分小学校も、手ノ子小学校と同じような山間の小さな学校(全校児童24名)で、全校で環境に優しいランタン作りを学習していることをニュース映像で教えてくださいました。本校は、全校児童21名で、飯豊町がSDGs未来都市に指定されており、5・6年生はSDGsについて学習していることや、3・4年生が花笠まつりで使用する菅笠作りを学習し、郷土を愛する心を育てていることを伝えました。

また、先週の26日(金)には、12月3日(金)の学習参観日に交流を予定している5・6年生が、本校の保護者でもある飯豊町観光協会の方をゲストティーチャーに迎え、一人一人中国語で自己紹介ができるように教えていただきました。その際、9月27日(金)に東京外国語大学の学生・留学生との交流学习で、英語で飯豊町や学校の紹介した経験を生かしていることに感心しました。ロイロノートを使い、飯豊町観光協会の方が準備してくださった一人一人の自己紹介文の紙を写真に撮り、スマートフォンから聞こえてくる発音を録音し、イヤホンを着けて目と耳で何度も練習していました。

飯豊町観光協会さんのお計らいで、台湾の小学校とオンラインでの交流学习を行うことになりました。お相手は、台湾の春節(旧正月)時期の風物詩となっているスカイランタンフェスティバル(天灯節)が行われることで有名な、北部の新北市平溪(ピンシー)の十分(シーフェン)小学校です。